

『鬼平犯科帳』の第一巻・第一話「啞の十蔵」は、次の第二話「本所・桜屋敷」とともに、主人公・長谷川平蔵のプロフィールや若かりし頃のエピソード、時代背景、火付盗賊改などについての基本的な解説がなされていて、さしずめ、『鬼平犯科帳』の序論・総論といった位置づけになっている。

物語は、火付盗賊改方の同心・小野十蔵と、盗賊・助次郎の女房“おふじ”との道ならぬ関係を軸に進行し、この間、火付盗賊改方の長官が、堀帯刀から長谷川平蔵へ交代する様子が描かれている。新任の長官・長谷川平蔵は、兇賊・野槌の弥兵衛を逮捕して鮮烈にデビュー。盗賊たちから、「鬼の平蔵」と呼ばれ恐れられたという。天明七年春から秋にかけての話である。

この中で、原作者の池波さんは、長谷川平蔵の容姿について、「小肥りの、おだやかな顔面で、笑うと右の頬に深い笑くぼがうまれたという」と、書かれている。ところが、この「笑くぼ」、その後の『鬼

平犯科帳』の後に、この話を聞いた、密偵・小房の条八（第一巻・第三話「血頭の丹兵衛」）は、えらく感動したという。

原作では、長谷川平蔵の妻女“久栄”は、二男二女を生んだことになっていて、平蔵の子供は四人である。長男の辰蔵は、次女“清”と共に目白台の私邸で留守をあずかり、次男は養子に出て、長女は三石の旗本・河野吉十郎へ嫁いでいる。

### 「宣義」

辰蔵 平蔵 母は親英が女。

天明八年十二月二十三日はじめて將軍家にまみえたてまつる。寛政七年五月八日御書院番に列し、八月三日遺跡を繼（天明八年四月二十三日御小納戸に轉じ、五月二十三日若君に附屬せられ、十二月十九日布衣を着する事をゆるさる。九年四月二十一日より西城に勤仕し、後將軍家放鷹のときしたがひたてまつり、鳥を射て時服をたまふ。妻は永井龜次郎安清が養女。）

女子 河野吉十郎廣通が妻。

女子 渡邊義八郎久泰が妻。

正以まさたけ 鍊五郎久三郎長谷川榮三郎正満

女子 が養子。

## 『鬼平犯科帳』細見

### 第二回

### 「鬼平」の笑くぼと

### 養女“お順”

（第一巻第一話「啞の十蔵」）

文 松本英亜

text by Hideitsugu Matsumoto



平犯科帳』のなかで、第二巻・第六話「お雪の乳房」に、「いいかけて平蔵、ほろ苦い微笑をうかべた。ほろにがくとも、彼の柔和な顔貌の右の頬に、笑くぼがうかぶ」という記述があるだけで、以後、「笑くぼ」についての描写が全くない。

「鬼平」ファンとしては、たまには、「粟田口国綱二尺二寸九分の愛刀にぬぐいをかけて鞘におさめ、ニッコリ笑った平蔵の右頬には……、なんていう描写を読んでみたかったのではないか……」。

ちなみに、第九巻・第一話の本格派の盗賊「雨引の文五郎」と第二十四巻・第二話の「髪結いの五郎蔵」は、ともに、左の頬に笑くぼができる。

次に、この第一話で、長谷川平蔵は、盗賊・助次郎と女房“おふじ”の間に生まれ、みなし子となった“お順”という女の子を、自分たち夫婦の子供として育てて行くことにする。このあたりの平蔵夫婦の「会話」と「問」は、何とも味のあるもので、結婚後十五年ほどたった二人のほのかな雰囲気、行間から伝わってく

平犯科帳』にたびたび登場して来る「いつものメンバー」のうち、火付盗賊改方の与力・佐嶋忠介と同心・竹内孫四郎、盗賊・小房の条八（後に密偵となる）、長谷川平蔵の妻女・久栄が紹介されている。

だが、『寛政重修諸家譜』を見ると、長谷川平蔵の子供は、男二人、女三人となっている。

池波さんは、ここに着目。

盗賊夫婦のみなし子“お順”を養女にすることによって、「鬼の平蔵」の人間味と、懐の広さを表現したかったものと思われる。

この第一話「啞の十蔵」には、これから「鬼



### Profile

1942年東京生まれ。東邦大学医学部卒業。医学博士。医療法人社団同友会顧問。著書に『小さな旅 鬼平犯科帳ゆかりの地を訪ねて』第一部～第五部（小学館スクウェア）。